

令和5年度第1回葛飾区環境審議会 議事録要旨

【日時】 令和5年11月8日（水） 午前10時00分～午後0時20分

【会場】 葛飾区役所 7階 701・702会議室

【出席委員】 崎田委員、藤野委員、矢後委員、竹内委員、赤澤委員、下井委員、関根委員、田中委員、鳥山委員、谷茂岡委員、胡委員、菅原委員、池上委員、大川原委員、大友委員

【欠席委員】 沢崎委員、島田委員、武者委員、湊委員

【事務局】 宮地環境部長、木下環境課長、大澤リサイクル清掃課長、岡部清掃事務所長、秋元施設整備担当課長、吉永、村上、下田

【次第】

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 葛飾区の環境施策と進捗状況の評価について
 - (2) (仮称) 葛飾区再生可能エネルギー導入戦略（素案）について
 - (3) 第2次生物多様性かつしか戦略実行計画の策定について
 - (4) (仮称) 全国みどりと花のフェアかつしかについて
 - (5) 葛飾区における3R進捗について
- 3 閉会

【資料】

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 資料1 | 令和4年度進捗状況の報告について |
| 資料2 | (仮称) 葛飾区再生可能エネルギー導入戦略（素案）について |
| 資料3 | 第2次生物多様性かつしか戦略実行計画の策定について |
| 資料4 | (仮称) 全国みどりと花のフェアかつしかについて |
| 資料5 | 葛飾区における3R進捗について |

発言者	審議内容
<p>会長</p> <p>事務局 (環境課長)</p>	<p><u>1 開会</u></p> <p>定刻になりましたので、これより令和5年度第1回葛飾区環境審議会を開会いたします。</p> <p>司会・進行を務めます会長の崎田と申します。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、議題に入る前に、事務局より連絡事項がございます。</p> <p>(委員の紹介、出欠の報告及び資料の確認を行った。)</p>
<p>事務局 (環境課長)</p>	<p><u>2 議事</u></p> <p><u>議事(1) 葛飾区の環境施策と進捗状況の評価について</u></p> <p>(資料1に基づき、説明した。)</p>
<p>委員</p>	<p>(委員等からの主なご意見は以下のとおり)</p> <p>第3次葛飾区環境基本計画に掲げた目標や施策の進捗状況について、一部はグラフなどを用いてわかりやすく示されているが、その他の数値などもグラフなどを用いてさらにわかりやすい資料にしてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>葛飾区は他区と比べて、中小企業が多く、今後どのような支援を実施していくか課題だと感じていたが、金融機関と連携して支援する枠組みを構築したとの報告を受け安心した。</p>
<p>事務局 (環境課長)</p>	<p><u>議事(2) (仮称) 葛飾区再生可能エネルギー導入戦略(素案)について</u></p> <p>(資料2に基づき、説明した。)</p>
<p>委員</p>	<p>(委員等からの主なご意見は以下のとおり)</p> <p>脱炭素に向けての中小企業支援とあるが、本区は中小企業の中でも下請け企業が多い。低工賃の事業の中に環境を組み入れて事業が成り立つのかは考える必要がある。また、ひと昔と比べ事業所数は大幅に減少しており、これからは事業体のありようも変わってくる。こうした中で本当の意味での支援のあり方をもっと掘り下げて考えていかなければならない。端的に言うと、大量生産の下請</p>

	<p>けはなくなる。競争力のある差別化ができるかどうかにかきている。生き残る中小企業を育てるという意味で、真剣に目利きをこらして対応していかなければならない。</p>
<p>会長</p>	<p>中小企業と一口で言っても、業態は様々である。ゼロカーボンに向けた支援をどのようにしていくか、どのようにマッチさせていくかが大事である。大企業はサプライチェーン全体で考え始めているため、みんなで考えるいい機会である。地球温暖化の観点から新しいものをつくるアドバイスができると良い。</p>
<p>委員</p>	<p>街路灯へのLED導入により電気使用量は大幅に削減されている。こういった温暖化対策に有効な取組を区が積極的に発信し、一つ一つ実施していくことが大切である。</p>
<p>委員</p>	<p>本戦略に示されている施策だが、例えば足立区の施策に当てはめた場合に大部分が似た施策になる。葛飾らしさがどこに入っているかわかるとよい。</p> <p>また、重点取組の「自立分散型のエネルギーシステムの構築」について、系統電力が使用できない場合、どれくらいの電力が必要でどういった施設に電力を供給できるかなどもっと具体的に示してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>本区の地域特性としては、川に囲まれ、海拔ゼロメートル地帯が広がっているため、安全・安心な街づくりが求められている。そのため、脱炭素によるレジリエンスの強化を図っていききたい。またこういった地域特性もあり、住みにくい街と思われがちであるため、魅力ある街づくりを進めていききたい。</p> <p>また、足立区とは地域特性が似ているため、似た施策になる。一番大事なことは施策を展開していく中でその地域の実情に合わせてやっていくことが重要であるため、丁寧に実施していききたい。</p> <p>「自立分散型のエネルギーシステムの構築」の取組については、いつ頃にどのように実施するかは大事な部分である。今後示せる部分については示していききたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事(1)のご意見にも関わるが、全ての数値をグラフ化すると膨大な量となるため、重点的な取組についてグラフ化を行っている。具体的にこの部分についてもっとわかりやすくしてほしいというご意見があれば優先的に検討していききたい。</p> <p>また、POCAを回すための数値目標については、上位計画である環境基本計画で進捗管理を行うことが大切であるが、技術革新など時代の流れも速く、状況に応じて数値の見直しを行っていく必要があるため、本戦略などを活用しながら随時見直しを図っていききたい。</p>
<p>委員</p>	<p>温暖化対策を一人一人がどのように実施すればよいかを考えるのはなかなか大変なことである。そのため、消費者はこれをやる。事業者はこれをやると具体</p>

	<p>的な目標を掲げると取り組みやすい。例えば、本区では毎月5日が環境の日となっており、5日はごみを出さないなどこうした具体的な取組を考えてもらいたい。</p>
委員	<p>本戦略で不足する電力については、区外から電力を調達すると記載されているが見通しはたっているのか。</p>
事務局	<p>現時点では見通しはたっていないが、今後、大規模な風力発電の建設や太陽光発電の技術革新などで各地域において電力の余剰がでてくるものと考えている。</p>
委員	<p>日常生活の場面でも脱炭素化が求められている一方で、何をしたらよいかわからないなどの意見がある。そのため、江戸川区が実施しているアプリの導入や民間企業が実施しているクイズ形式により、行動変容を促す取組はどうか。アプリについては、自分の健康を入口として、自分事として取り組めるものとなっている。クイズ形成については、楽しく学ぶことができ、自然に何をすればよいかわかるようになっている。こういった日常生活の中で、区民のすること、区民意識の総底上げの取組を考えてもらいたい。</p>
委員	<p>本戦略はとてもよくできているが、本当に金融機関が支援してくれるのか。そして、実施に当たっては相当の税金が投入されると考えるが、区民にとっては重要な話であり、しっかりと数値として示す必要がある。</p> <p>また、再生可能エネルギーの活用として太陽光発電と合わせて水素エネルギーの活用を検討してもいいのではないか。</p>
事務局	<p>基礎自治体が財源を増やさずに環境費を増やすことは現実的に難しいが、一方で環境政策は前へ進めていかなければならない。国はGX移行債など将来の世代になるべく負担のかからないよう財源を用意しているが、その財源を基礎自治体が見えるよう国に働きかけることが今後重要になると考えている。</p> <p>また、水素エネルギーは重要なエネルギー源である。区としてはFCV等で補助を行っているが、さらに水素エネルギーを活用できるよう調査研究を進めるとともに、様々な機関と連携しつつ技術革新の動向を注視しながら、積極的に導入を検討していきたい。</p>
委員	<p>本戦略の名称は再生可能エネルギー導入戦略となっているが、中身は再生可能エネルギーのほか、省エネや街づくりの内容も含まれており、脱炭素化に向けた全体的な取組が記載されている。</p>
事務局	<p>当初は、再生可能エネルギーの導入に係る戦略であったが、策定過程で内容が多岐に及んだため、サブタイトルなどで工夫していきたい。</p>

委員	<p>日本の貿易赤字のうち燃料によるものが10～20兆円程度ある。毎年赤字で垂れ流している状況で、ほとんどが非効率的な家の構造や断熱性能がきわめて低い家に住んでいるためである。工場などについても建設当時は最先端だったが、現在は中国で鉄を作ったほうが二酸化炭素を排出しないし、燃料費も安い状況にある。今、投資をしないと赤字を垂れ流す状態が続いていく。そのため中長期的に考えてどの程度赤字を垂れ流すことになるかシビアに見ていく必要がある。今後の区民の生活をおびやかすだけでなく、産業が衰退することにつながる。目先のことをだけを考えると危うい状況に陥ることとなる。</p>
委員	<p>葛飾区は民生部門の排出量が多く、区民の行動変容が大切である。また、古い建物が集まっている地域や再開発エリアなど街づくり部門との連携が重要となる。例えば、これから暑い夏が続く中で環境にやさしいエアコンの買い替えを行った家庭へ支援するなどのメリットを打ち出していく必要がある。中小企業についても新しい建物にしたほうがメリットのあるような取組を考えるとよい。</p>
委員	<p>活用する再生可能エネルギーのほとんどが太陽光発電となっているが、本区は川に囲まれているため、川の流れや潮汐などを活用できないか。活用する技術も増えており、相当のポテンシャルが見込めると考える。</p>
会長	<p>水力発電は小型で性能がよいものも出てきているため、環境学習などを通して、普及啓発や関心を高める取組も考えられる。エネルギーとして活用と環境学習による活用の両面からご検討いただきたい。</p>
委員	<p>再生可能エネルギーのポテンシャルとしては、地中熱が大部分を占めているが、発電にはつながらないことから、今後の導入は検討していないのか。</p>
事務局	<p>地中熱については、モデル事業として中青戸小学校で実施したが、採算が合わなかった。小水力についても、ゴミが堆積するなど課題があり、現時点では難しいと考えている。しかし、今後更なる技術革新が進み、経済合理性をもって導入できる場合は積極的に活用していきたい。</p>
委員	<p>議事（3）第2次生物多様性かつしか戦略実行計画の策定について</p>
委員	<p>（策定に携わった委員の方から資料3に基づき、説明いただいた。）</p>
委員	<p>（委員等からの主なご意見は以下のとおり）</p> <p>自然の恵みは生活に欠かせない資源をもたらすとともに、守り・維持していかなければならない。そのためには、葛飾区で生きる在来の動植物や生息地の保全あるいは生態系のバランスをとることが必要であり、環境教育を通して区民の</p>

委員	<p>意識を高めるとともに、環境を考えた持続可能な社会を構築していくことが重要である。今回策定した本計画はその道筋を示すものとなっている。</p> <p>また、計画の策定に当たっては、葛飾区内で保全活動や環境教育に携わっている葛飾区民が主導して策定した類まれなケースであり、人と自然が調査した共生社会が実現可能な形として築かれていっている。</p> <p>こうした葛飾区民の活動が世界の模範として発信できるような計画となっており、いつしか葛飾スタンダードいわれるようになるとうれしい。</p> <p>情報発信については、自然環境に限らないがもっと積極的にわかりやすく発信していく必要がある。イベントの開催の周知などの情報発信に留まらず、例えば自然保護区域の紹介やその区域にどういった生物が住んでいるかなどの情報も持続的に周知してほしい。</p>
委員	<p>全般的に生き物に対する区民の関心が低い現状がある。そのため、広く区民に関わっていただく枠組みを現在考えている。また、情報発信は行っているが、まだ不十分だと感じている。取組に対して人材や予算も同時に回るようにしていく必要がある。</p>
委員	<p>国では、生物多様性国家戦略のローカル版を作ることが推奨されており、本計画はこれに即した計画になっているかもしれない。計画の内容を確認した上で、先進的な取組としてイクレイを通して世界に発信したほうがよいのではないか。</p>
委員	<p>今回策定した本計画は、国の取組を強く入れずに区独自でできるものに重点を置いている。国の取組に沿ったものにすることでアピールになるなどメリットがあれば今後積極的に検討していてもよいかもしれない。</p>
事務局 (環境課長)	<p>議事（４）（仮称）全国みどりと花のフェアかつしかについて</p> <p>(資料４に基づき、説明した)</p>
委員	<p>本取組は、国の取組である自然共生サイトとマッチしている。国が「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」として指定することで区民も喜ぶため、ぜひ積極的に推奨してほしい。</p>
事務局 (リサイクル清掃課長)	<p>議事（５）葛飾区における３Ｒ進捗について</p> <p>(資料５に基づき、説明した)</p> <p>意見なし</p>

	<p><u>全体と通して</u></p> <p>委員 オフセット対策で J クレジット制度の推進とあるが、公共施設で木質ペレットを活用し、認証を取得するのはいかがか。</p> <p>事務局 木質ペレットについては、量や経済原理がどうかといったところがある。そういったところを踏まえ効率的であれば積極的に活用していきたいし、今後の動向を注視していきたい。 また、Jクレジットはまだまだ普及していないが、これからは活用していかなければならない。時期がみて、検討していきたい。</p> <p>委員 内容が難しかったが、生物多様性の内容に関心があった。次回は自分でも発信できるようにしたい。</p> <p>委員 地球温暖化の影響が見えづらい部分があるため、自分たちの暮らしにどう影響するかわかりやすく発信できたら、もっと身近になる。</p> <p><u>7 閉会</u></p> <p>事務局 (環境課長) 今回、委員の皆様からいただきましたご意見等につきましては、発言者の氏名を伏せた形で議事要旨としてとりまとめ、ホームページに公開させていただきます。 次に、次回の葛飾区環境審議会についてご案内させていただきます。次回の開催は令和6年2月上旬頃を予定しています。 詳細な日時・場所が決まりましたら、書面にて通知させていただきます。 引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。 事務局からの連絡は以上です。</p> <p>会長 これをもちまして、令和5年度第1回葛飾区環境審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>
--	--